

# 「今城塚古墳と埴輪」

担当:3丁目 井守徳弘

予定コース:(徒歩距離 約7km)

近鉄高の原駅＝京都駅＝JR京都駅＝JR摂津富田駅(市バス)－土室南－太田茶臼山古墳(継体陵)－番山古墳－史跡新地ハニワ公園(昼食)－八幡神宮－鬮野神社－観音寺－今城塚古墳－今城塚古代歴史館－福祉センター(市バス)＝JR高槻駅＝JR京都駅＝近鉄京都駅＝高の原駅 (解散:5時30分ごろ)

## ●太田茶臼山古墳(宮内庁治定・継体天皇の三島藍野陵)

墳丘は全長226m、後円部径138m、前方部幅147mの前方後円墳です。昭和61年(1986)には外堤の、平成14年(2002年)には墳丘本体の護岸工事を前提とした発掘調査が宮内庁によって行われており、大量の円筒埴輪の他、馬形埴輪、甲冑形埴輪、水鳥形埴輪、須恵器片などが出土している。宮内庁管理区域外では大阪府教育委員会や茨木市教育委員会によって発掘調査が行われており、外堤上の埴輪列や、陪冢に使用されていたと見られる形象埴輪などが出土している。

造営された時期は、昭和61年(1986年)に周濠から出土した埴輪の特徴などから見て、5世紀中頃の古墳時代中期であろうと考えられている

『日本書紀』では、継体天皇25年(531年)2月に磐余玉穗宮で崩御したとあり、同年の12月に藍野陵に葬られたという。『古事記』は三島の藍の御陵としている。

531年は6世紀前半となり、出土埴輪からみてほぼ80年の違い出てきています。

江戸時代中期に継体天皇陵に比定されたが、文献史学の立場からは、延喜式記載の摂津国嶋上郡(現高槻市)にあるという所在地と異なるという問題点が早くに指摘されていた。太田茶臼山古墳(三島藍野陵)は摂津国嶋下郡(現茨木市)になります。

このため、真の継体陵は今城塚といわれるようになった。



円筒埴輪

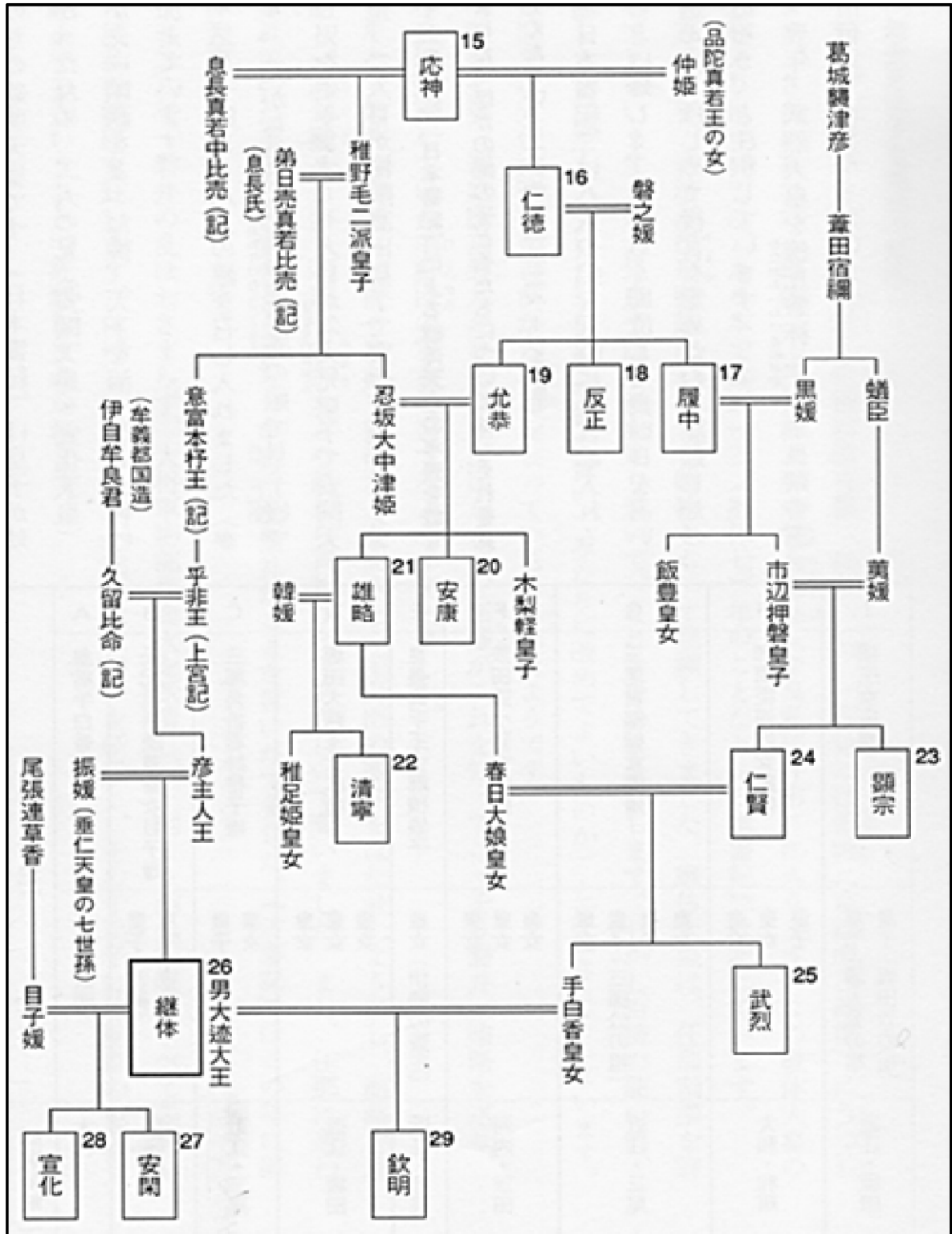


出土状況



5世紀中頃とすると継体陵とするには時期がやや古い。継体の祖父の墓という説もある。いずれにしろ北摂最大の規模、八つの陪塚を有することから、大王級の豪族であったことは疑い得ない。  
 後円部周濠で検出された円筒埴輪は新池遺跡A郡窯で焼かれたものであった。

○応神天皇五世孫の継体天皇



## ●西国街道

江戸時代における街道のひとつであり中国路、山陽路ともいわれる。京都から下関までの経路で、律令時代に整備された大路と一致する。江戸時代の道路としての山陽道は、京都の羅城門(東寺口)から下関の赤間関に至る道として再整備されたものである。当時の西国街道は道幅二間半(約4.5m)と定められ整備されました。寛永12年(1635年)年参勤交代制の確立のためにも重要な街道であった。

## ●二子山古墳

二子山古墳は継体天皇陵の陪冢(大きな古墳に近接した小さい古墳で、近親者や従者を葬った墓)として宮内庁の管理下にある、5世紀終末の古墳です。二つの墳丘が近接している。

このあたり「土室(はむろ)」地区の丘陵地域から平野部にかけては、「塚原」地区と呼ばれ、高槻を代表する古墳が集中して造られたところとして知られている。当地にはあらゆる形の5世紀の古墳があり、古墳の宝庫だった。

古墳群には、北から番山古墳、土保山古墳、石塚古墳、二子山古墳、高樋古墳などが分布していた。

昭和22年(1947)に調査が行われた土保山古墳には、長持形木棺を納めた竪穴式石室が発見され、副葬品として弓や刀、盾、短甲など貴重な遺物が多数出土したと云う。しかし現在は番山古墳と二子山古墳しか残っていません。

名神高速道路の建設により破壊され無くなってしまいました。5世紀中葉の古墳です。土保山古墳の石室は高槻市立第二中学校に復元されています。



土保山古墳の埋葬施設の出土状況

## ●番山古墳

当初直径56m・高さ7mの円墳とされていたが、濠跡などから南西部に短い前方部を持つ、墳丘全長90mの前方後円墳に訂正されています。

墳丘の周囲にはいまも水をたたえた水濠となっている馬蹄形をした周濠があります。この周濠のさらに外側には堤があります。

これらの外周施設をふくめた全長が110mになります。

円筒埴輪、三角板式短甲形埴輪、肩甲付短甲形埴輪、家形埴輪、動物(脚部)埴輪などが採取されており墳丘には埴輪の配列がなされていました。

築造は古墳時代の中期にあたる5世紀終末ごろと推定されています。

## ●土室(はむろ)遺跡

一帯は、古墳造営にかかわった人々が居住したと見られる土室(はむろ)遺跡。  
『日本書紀』欽明23年11月条に新羅系の人々の居住地として「三嶋郡埴廬(はにいお)」と出ているがここのことといわれる。  
埴廬(はにいお)とは埴土(赤土)の採れる所だといわれています。



土室遺跡の埴輪

## ●ハニワ工場公園(国史跡)

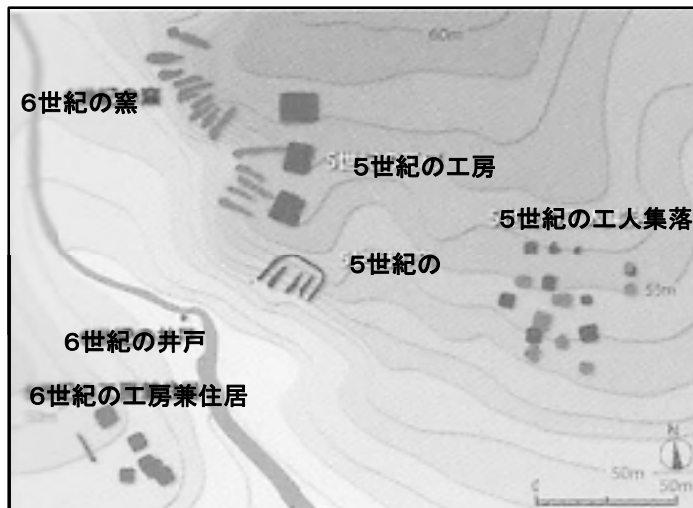
ハニワ工場公園は、日本最大級のハニワ工場である新池遺跡を保存、史跡公園として平成7年3月に開園されました。

新池遺跡でハニワの製造が始まったのは西暦450年頃とされている。当時、ハニワは太田茶臼山古墳のために造られたらしい。480年頃には窯、住居共に新設され、番山古墳などのハニワを焼いていたと推定されている。更に、530年頃には今城塚古墳のために窯が多数造成され、ハニワの生産量は最大となり、今城塚には数万本のハニワを送り出したといわれている。

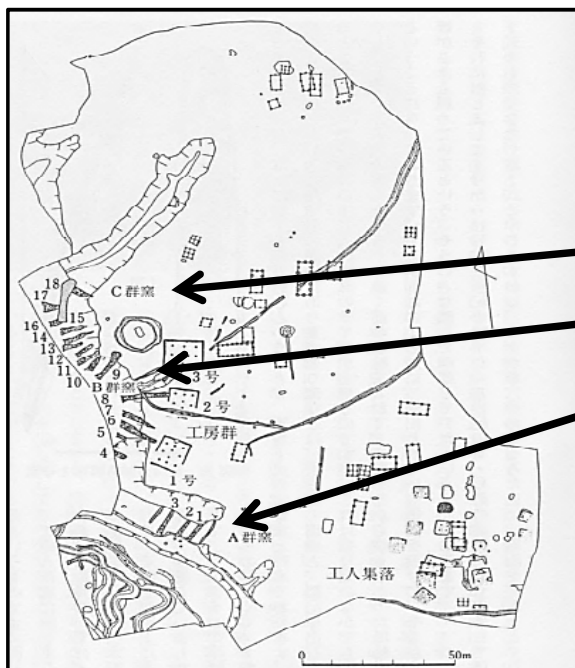
発掘調査から、ここには窯の数18基、作業場が3棟あったと考えられている。

ハニワの製造工場は日本全国で約90ヶ所発見されているらしいが、大王(天皇)のためのハニワ工場の全体像が明らかになっているのは、この新池遺跡だけといわれている。

公園の一番奥には、「ハニワ工場館」がある。この館内には発掘された状態のままの窯が保存展示されている。この窯は西暦530年頃に造られたと考えられているトンネル式の窯で、18号ハニワ窯と呼ばれているものである。規模は長さ8.2m、幅2.5mで、新池遺跡で最大の窯とされている。



新池遺跡の埴輪生産遺構



- C群窯 今城塚古墳
- B群窯 番山古墳
- A群窯 太田茶臼山古墳

## ●八幡大神宮

祭神は天照皇大神・応神天皇・天兒屋根命。  
創建の年月は不詳である。八幡神社とも呼ばれ、土室の氏神として地元民の信仰が厚い。

## ●鬪鷄野神社

祭神は天照皇大神・応神天皇・天兒屋根命。  
創建の年月は不詳であるが、もとは八幡大神宮と称し、氷室の氏神として崇敬を集めたという。

鬪鷄野は、仁徳天皇62年頃、額田大中彦皇子の獵場であったといわれ、奈良県の鬪鷄野などとともに、鬪鷄を「ツゲ」と読むのは、鷄鳴が神託を「告げる」ことに由来するという。

ここより北の丘陵上には、南面した前方後円墳があり、鬪鷄山古墳と呼ばれている。  
(高槻市教育委員会)

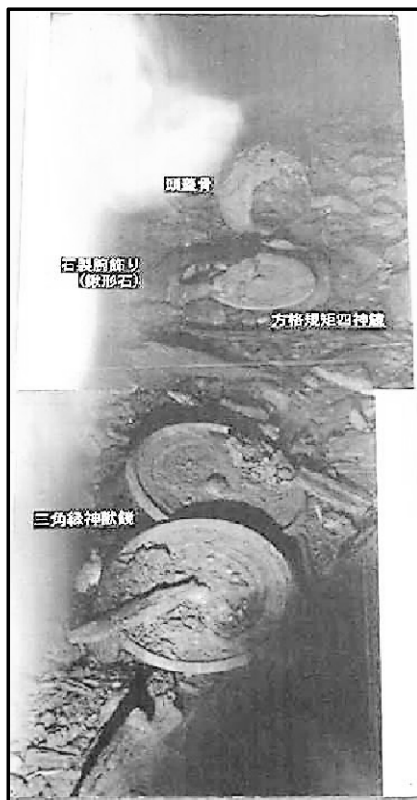
## ●鬪鷄山古墳

古墳時代前期の4世紀前半に造営された前方後円墳である。  
前方部を南側に向けて造られている。全長86.m、後円部の直径約60m、前方部、後円部ともに2段の段築がなされ、二段目のテラスや埋葬施設がある後円部墳頂部まで、墳丘全面に葺石がほどこされているが、埴輪は見られない  
埋葬施設として、後円部に2基の竪穴式石室が確認されている。

平成14年(2002)の調査で第一主体、第二主体とも未盗掘で、埋葬当時の状態をとどめていることが判明した。

石の隙間からファイバースコープを通して石槨内を覗いたところ、棺は前期古墳では一般的な割竹形木棺で、棺材の一部は腐朽せずに残っていると見られる。被葬者の周囲には朱が撒かれており、頭蓋骨も朱に染まった形で確認された。副葬品としては三角縁神獣鏡2面、方格規矩四神鏡、碧玉製の腕飾り、南海産の貝製品、石製品、銅鏃、鉄刀などが確認できた。また三角縁神獣鏡のうちの一枚は、京都府木津川市の椿井大塚山古墳で発掘された鏡と同型のものであることが判明した。また、石槨の端部には甲冑の一部と見られる鉄製の小札が多数見つかっている。

平成22年(2010)度中に発掘方法を検討し、2011年度以降に着手する見込みとされている。



ファイバースコープで覗いた第1主体の石室内の映像

## ●観音寺

観音寺は、氷室山と号して真言宗に属し、聖観世音菩薩を本尊とする。創建の年月は不詳であるが、永禄年間(16世紀中頃、室町時代終末期)の僧空寿(くうじゅ)が入ってき中興。高槻城主第3代永井直種(なおたね)を大檀家とし、以後永井家の祈願所となる。当時は、本堂のほか護摩堂、庫裏、(くり)、鐘楼等があり、大いに繁栄したというが、明治4年(1871)の廃藩置県後は大檀家を失い、寺運は衰退した。

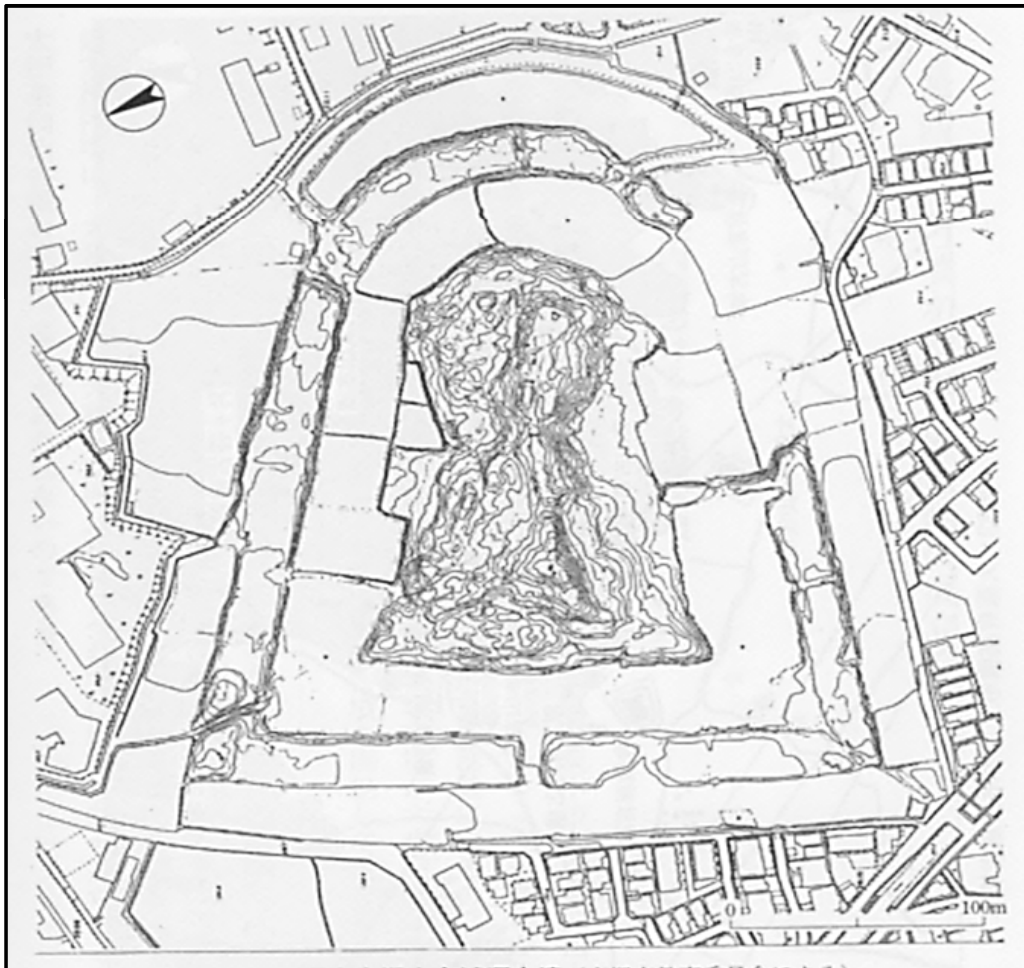
現存する堂宇は盛事の護摩堂で、堂内には本尊のほか釈迦如来像、十一面観音像を祀る。

## ●今城塚古墳

今城塚古墳は6世紀前半の前方後円墳で国の史跡です。墳丘の長さ181m、二重の濠がめぐっており、内濠、外濠を含めた全長は354mで、この時期に造られたものとしては日本最大の古墳です。

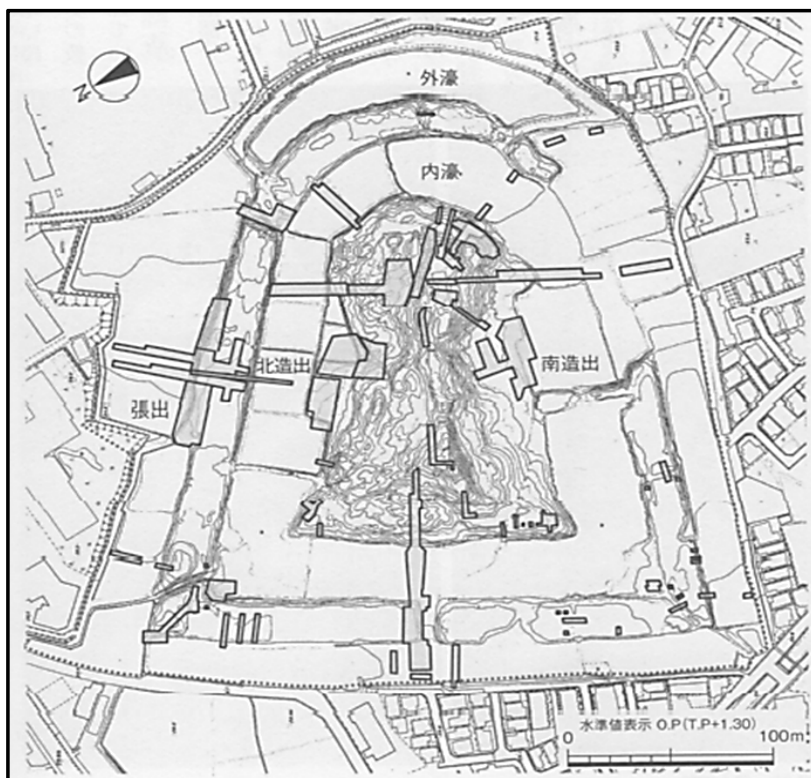
10年間にわたる発掘調査では、日本最大級の埴輪祭祀場や、墳丘内石積、石室基盤工といった当時最先端の土木技術などの貴重な発見が相次ぎました。

発掘成果は6世紀前半の大王墓という従来の見解をゆるぎないものとし、学術的には、『日本書紀』が531年12月に三島の藍野に葬られたと記す継体大王の真の陵墓と考えられています。

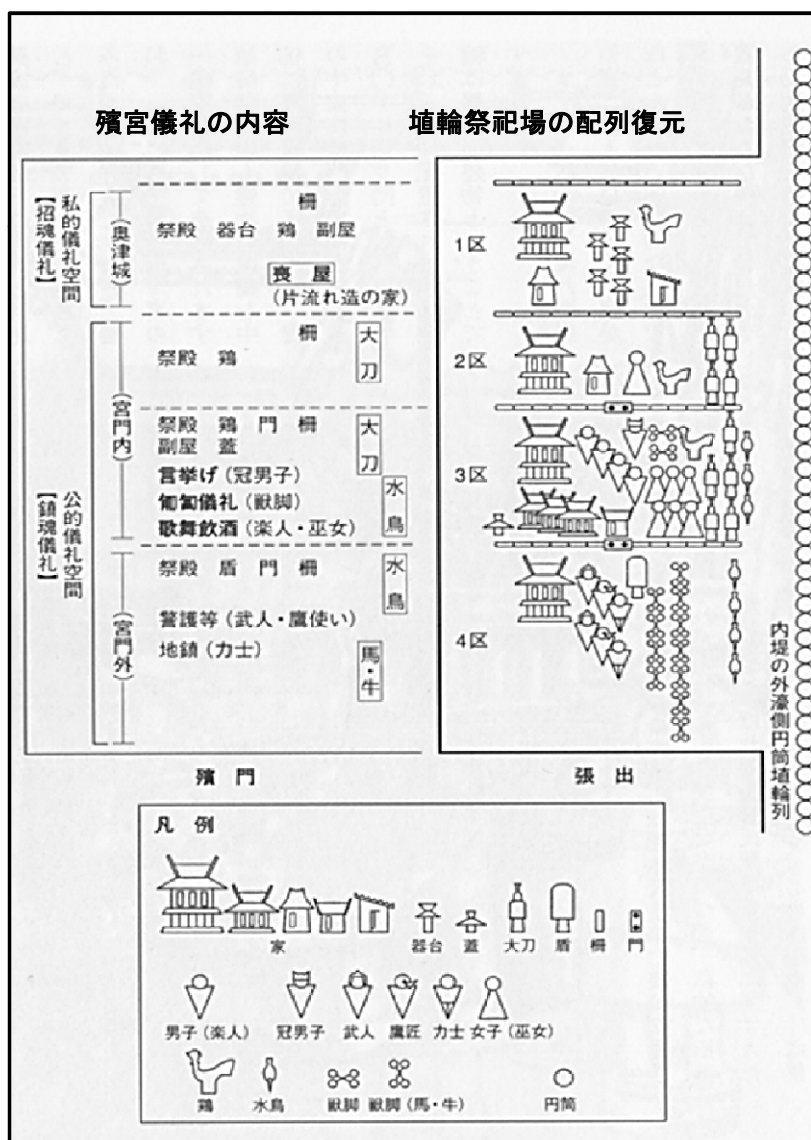


今城塚古墳(高槻市教育委員会)

今城塚古墳発掘調査区域図



今城塚古墳の殯宮儀礼(左)と埴輪祭祀場の配列復元(右)





## ●今城塚古代歴史館

2011年4月1日にオープンしました。

10年間にわたる発掘調査と7年間に及ぶ整備工事を経て、豊かな緑と水をいかした学びと憩いの場として一般開放されています。隣接の古代歴史館では、貴重な大王陵の発掘成果の展示を中心に、体験学習室や高槻の魅力を詰め込んだ観光情報発信コーナーなどがあります。常設展は無料で公開されています。

## ○継体天皇

	日本書紀	古事記
家柄・出自	彦主人(ひこうし)王の子 (越前国坂井の三国に住まい)	品太王(応神)の五世の孫。
母	振媛(垂仁天皇の七世の孫) (近江国高島郡三尾出身)	
名前	男大迹(おおどの)天皇	袁本杼(おほど)命
前天皇	武烈天皇は57歳で崩御 後継者がいなく跡継ぎが絶えて しまうところだった。 継体2年10月3日に武烈天皇を 葬った。	
天皇に迎える	大伴金村大連らが三国に迎えに いった。	
皇居	河内国交野郡葛葉(くずは)宮 山城国綴喜に移る。5年10月 山城国乙訓に移す、12年3月9日 磐余玉穂に置く、20年9月13日	伊波礼(いわれ、桜井市)の 玉穂宮
即位	継体元年2月4日	
皇后	手白香皇女、継体元年3月5日	
后妃	9人 稚子媛 目子媛 手白香皇女 麻績(おみ)娘女 広媛(坂田大跨王の娘) 倭媛 萁(はえ)媛 広媛 関媛	7人 若比売 目子郎女(めのこのいらつめ) 手白髪命(たしらかのみこと) 麻組郎女(あさくみのいらつめ) 黒比売(坂田大俣の女) 倭(やまと)比売 波延(はえ)比売
お子様	男子9人・女子12人	男子7人・女子10人
継体天皇崩御	25年2月、病重くなる。 7日、玉穂宮で崩御。87歳。 25年12月5日、藍野陵に葬った。 (ある本は28年崩御とある。)	三島の藍陵。
後継天皇位	目子媛の子 安閑 宣化 手白香皇女の子 欽明	目子郎女の子 安閑 宣化 手白髪命の子 欽明

	日本書紀	古事記
反乱の記事	21年8月1日、磐井の反乱。 22年11月11日筑紫で交戦、鎮圧。	筑紫君石井(いわい)の反乱 物部荒甲之大連・大伴金村連で 石井を殺す。
農業・養蚕 の推進	天皇・皇后自ら行い推進	
百済に遣使	3年2月、百済に遣使。 任那(みまな)の百済の民が逃亡 してきた。 6年4月6日百済遣使。 6年12月百済より調をたてまつる。 7年6月五経博士をたてまつる。 7年11月5日百済將軍詔を賜る。 9年2月4日百済將軍帰国を希望。物部連 は水軍500を率い赴く。 9年4月物部連攻められ逃亡。 18年1月百済聖明王即位。 21年6月3日兵6万任那に行く。	

#### ○参考文献

講談社学術文庫 日本書紀(上) 宇治谷孟 昭和63年 (株)講談社  
 講談社学術文庫 古事記(下) 次田真幸 1995年 (株)講談社  
 継体天皇と今城塚古墳 高槻市教育委員会編 平成9年 (株)吉川弘文館  
 考古学から見た倭国 白石太一郎 2009年 (株)青木書店  
 継体天皇二つの陵墓、四つの王宮 西川寿勝他 2008年 (株)新泉社  
 継体天皇の時代 高槻市教育委員会編 2008年 (株)吉川弘文館  
 謎の大王 継体天皇 水谷千秋 平成13年 (株)文藝春秋  
 王権と儀礼 秋季特別展図録 大阪府立近つ飛鳥博物館 2005年  
 高槻市立今城塚古代歴史館 常設展示図録 高槻市教育委員会編 平成23年  
 史跡・今城塚古墳現地説明会資料 第5次 平成13年 高槻市教育委員会  
 史跡・今城塚古墳現地説明会資料 第6次 平成14年 高槻市教育委員会  
 史跡・今城塚古墳現地説明会資料 第7次 平成15年 高槻市教育委員会  
 今城塚古墳 放送大学歴史クラブ滝内基弘 2005年  
 ウィキペディアフリー百科事典他